

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070701331		
法人名	医療法人 香林会		
事業所名	グループホーム 螢の郷 (西ユニット)		
所在地	〒807-1103 福岡県北九州市八幡西区香月西3丁目10番17号 Tel 093-618-8893		
自己評価作成日	平成30年10月04日	評価結果確定日	平成30年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成30年11月02日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方が、なるべくご自分のペースで生活ができるように支援をさせて頂く。 同じ法人内に病院があるので 入院が必要になった時も、また螢の郷に戻ってきて頂き、ご本人さん、ご家族の意向をお聴きしながら その方に合った生活を作っていきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に出て行くことを意識している。 職員と地域に出て行く機会をいつも探している。 地域の行事などはその都度職員に知らせて参加を考えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っているが、町内の清掃などには参加できていない。 近隣のお店(花屋、時計屋、電気屋、スーパーなど)は入居者さんと一緒に利用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者さんと一緒に街に出て行くことで、認知症があっても普通に生活ができることを周囲の方に解ってもらう。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者さんの希望していることなどを報告する事で、ボランティアグループなどを紹介してもらったりしている。(三味線や歌など)		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の時に行政の方に空室情報をお知らせしている。市の担当の方とは新しい加算のことで質問をしたりアドバイスを頂いたり、必要な時にはやりとりをしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、月に1回、話し合いの時間を作っている。現在、拘束につながることはしていないか、もしくはベッド柵などで拘束につながる事例がある時には代替の方法はないかなどを話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し伝達の勉強会を実施。カンファの時に色々な対応、声かけが虐待につながっていないか話題として取り上げる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し伝達の勉強会を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては不明な点、納得が出来ない部分は十分に説明を行う。ご入居後なるべくご家族に声をかけるようにして話しやすい状況を作るようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんはもちろんだがご家族が職員、管理者と話しやすい雰囲気を作っている。まず、挨拶を必ず行い職員側から入居者さんの近況などを簡単に話したりして会話のきっかけを作る様にしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員はいつでも話せる状況である。研修に関する事、勤務体制のことなど提案（意見）があり改善した。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく残業がないように職員の配置を考えている。休みの希望を入れることで職員自身の生活が充実するように考えている。研修会に参加する機会を増やし職員の知識の幅を広げる。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用については、性別、年齢などは特に限定していない。現在、勤務している職員については、得意なことは十分に活かして勤務している。（作品作り、調理、おやつ作り、室内の片付け方法の提案など）		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファ、勉強会で入居者さんについての人権は話題にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける 機会の確保や、働きながらトレーニングしていく ことを進めている	職員に合った研修会の参加を考えている。 資格の取得に対しても積極的に働きかけている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。協議会主 催の研修会に職員も参加し交流をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本 人の安心を確保するための関係づくりに努めて いる	ケアプランに添ってサービスを行いながら不足して いるところはないか、ご本人の出来る事、出来ない 事を把握できるように見守る。又、御入居後、1か 月くらいは努めて傍にいて不安感の軽減に努め る。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、 関係づくりに努めている	ご家族の方が話をしやすいように笑顔で挨拶を する。「気になることはないですか」など話しかけ る。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が 「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族としっかり話し合い、螢の郷で出来る事、出 来ない事をきちんと伝える。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	ご本人が出来る事はして頂き、出来そうにないこと は色々な方法を考えて一緒に行う。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	ご家族に近況報告を行い気持ちに寄り添い意向を お聴きしながらご本人と良い関係が築くことがで きるようにしている。 また、ご本人が日頃よく口にされているご家族へ の思いなどもご家族に伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来られた時には、自室でゆっくりと過ごして頂く。また、ご本人がすぐに相手の方を思い出せない時もあるのでわかりやすく説明を行い、馴染みの関係が維持できるように支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がご利用者の間に入り会話が弾むようにしている。又、行事などを通して御利用者同士が、良好な関係が保てるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族から相談があれば対応している。（御近所に認知症の方がいるがその家族が介護方法を悩まれている、〇〇地区にあるグループホームを教えてなど）		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に要望を尋ねたり、会話の中から思いや希望を把握するように努めている。また、それらをカンファで取り上げケアプランにつなげている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から生活歴や趣味などを聞き把握に努めている。アセスメントを利用し職員間で情報を共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「いつもと何か違う」と感じた時には、観察を密に行なっている。 週に1度、バイタル測定を行い体調の変化の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングで意見やアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成している。 また、日頃からご家族にも意向などをお聴きし、ケアプランに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記入している。特に注意が必要な点などは業務日誌に挙げて、職員間で情報を素早く共有できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリの送迎や個々に合わせその時の状況に合ったケアに努めている。外泊中の体調の変化に対応（迎えに行き病院受診など）		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民センターのふれあい昼食会に参加、地域のスーパーと一緒に買い物に行っている。障害者活動センターの方との交流をしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居によりかかりつけ医を変更する必要はない。受診も同伴しご家族に結果を連絡している。治療方針に関しては、ご家族の意向を十分取り入れている。（特に入院に関することなど）		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者さんの日常生活を常に観察し、どんな情報でも看護師に相談し共有し健康管理を支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者さんが入院した時は、病院にお見舞いを兼ねて様子を見に行く。また、看護師が病院側と情報交換を密に行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近いときは、ご家族の意向をお聴きしながら出来る限りのケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生は研修に参加し、伝達研修をしている。入居者さんの外傷などは、看護師が不在の時はまず応急処置（ガーゼ保護）を行い連絡をする。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災を想定し避難訓練を実施。水害など自然災害に関しては、避難場所、方法などをカンファの時などに確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、1人1人の人格を尊重し傷つけないような声かけをしている。（トイレに行くときの声かけ、排便の確認の声かけ、衣類が尿汚染などで更衣が必要な場面など）		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの希望をお聴きする機会をたくさん作っている。何気ない日常の会話をたくさんすることで色々な思い(希望)を引き出すようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決定したことを伝えるのではなく本人さんのペースに合わせて色々選択できるように声かけを行っている。 入浴の時間、昼寝の時に何時頃起こしたらいいか、食べたい物、衣類の選択など。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後に洗面台（鏡の前で）で髪や衣服を整えてもらったり、服も本人さんに選んで頂くように声をかけている。出来ない部分は手伝っている。理美容の業者さんも3か所を利用いつでも必要な時に利用できるようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんと買い物に行き一緒に食材を選ぶ。テーブル拭きも1人の方がすべてするのではなく、順番に台拭きを回してもらって行っている。そのことにより、入居者さん同士が話をする機会ができる。 食事が入らない方(食欲のない方)には、好きな物を用意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減をみて主食の量、副食の量を考えたり、ご本人の意向に合わせて副食の形態を変えたりしている。 水分もお茶に限らず、ご本人の好きな物を用意して水分量の確保に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まずご自分でして頂き、磨き残しがないか確認する。必要な方には、仕上げのお手伝いをする。歯ブラシもその方に合った物を用意している。歯間ブラシ、マウススポンジ、口腔内の乾燥を防ぐジェルなども使っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをつかむために排泄チェック表を使っている。本人さんに合わせて声かけを行いなるべく失禁が減るようにしている。また、パットの種類も個々に合った物を考えている。変化があった時はスタッフ間で話し合いを行い気持ちの良い排泄につながるようにしている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使い排便の確認を行っている。水分摂取の強化（好みの飲物で）、下剤の服用時間の工夫などを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、その中で午前、午後の選択は可能。拒否のある方は、時間帯や日にちを変えたりして対応している。個浴で一人づつゆっくりと入浴されている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態、体調、希望に合わせて、午前、午後とも自室で休んで頂くようにしている。室内の環境にも配慮し、エアコン、寝具の種類カーテンなどを効果的に使うようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更があった時には、内服後の状態の観察を行いスタッフ間で情報を共有している。（記録に残す） 変更の事項については、業務日誌に記載。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方が出来る事をしていただいている。洗濯物たたみ、干す、テーブル拭きなど。散歩や買い物など気分転換ができるように外出支援もしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に買い物に行ったり、外出の計画を立案するときは入居者さんの希望を聴きながら行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者さんのおこずかいは一括で預かり、外出時に必要に応じて使って頂く。また、入居者さんが金銭の不安を示された場合はしっかりと話を聴き納得していただけるように説明をする。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんが希望された時は、電話を使って頂いている。手紙のやり取りはできていない。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度調整、採光、換気、テレビの音量などの配慮。入居者さんの受け入れ方に偏りのないように工夫を行う。季節に応じた、花や壁飾り、写真の掲示などを実施しゆっくりと穏やかに過ごすことができるように工夫をしている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で集中できるレク（ぬり絵、パズルなど）を提供している。また、気の合った方々は隣同士に座って頂き、ゲームや会話を楽しむことができるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた慣れ親しんだタンスなどを持ち込んで頂き使用している。家族の写真を飾ったり、本などご本人の好きな物を自室に置くことで居心地よく過ごすことができるようにしている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し安全に歩行できるようにしている。トイレは大きく表示したり、洗面台もわかりやすいようにリビング内にオープンに設置している。		